

原著論文

チーム医療を実践している看護師が多職種と 連携・協働する上で大切にしている行為

——テキストマイニングによる自由記述の分析——

岡崎 美晴¹⁾・江口 秀子²⁾・吾妻 知美³⁾
神谷 美紀子⁴⁾・遠藤 圭子²⁾・服部 兼敏⁵⁾

Acts Valued by Nurses Who Practice Team Medical Care in Cooperation and Collaboration with People Holding Other Types of Occupations

——Analysis of Free Description with Text Mining——

OKAZAKI Miharuru, EGUCHI Hideko, AZUMA Tomomi,
KAMIYA Mikiko, ENDO Keiko and HATTORI Kanetoshi

Abstract :

Purpose : The purpose of this study is to clarify and visualize which acts nurses practicing team medicine value when cooperating with workers from other fields.

Method : The subjects were 247 nurses practicing team medical care. A free description survey, stating, “Things I value when cooperating with others having different occupations”. Analysis using text mining determined 1) word frequency and 2) word networking.

Results : Word frequency analysis determined “team member,” “team,” “different occupation,” “communication” and “oneself” as the top 5 most frequently used words. Word networking analysis showed a network divided into 4 clusters, “valuing human relationships and communication within a team,” “respecting expertise and the sense of values in different occupations,” “corresponding and approaching team members” and “holding one’s basic attitude within a team”.

Discussion : Nurses practicing team medical care value human relationships and communication within the team. Also valued is involvement with team members with respect to expertise and various fields’ sense of values allowing the team to function well and meet their goals. This means showing assertive reactions as they value members’ opinions while stating their own. Nurses who practice team medicine encourage others and become a key member of a team consisting of people from various fields.

Key Words : team medical care, nurse, cooperation and collaboration, act, text mining

抄録 :

【目的】本研究の目的はチーム医療を実践している看護師が多職種連携において大切にしている行為についてその具体的内容を明らかにし、可視化することである。

¹⁾神戸市立医療センター西市民病院

²⁾前甲南女子大学

³⁾甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学科

⁴⁾兵庫県立総合衛生学院看護学科

⁵⁾神戸市看護大学

【研究方法】対象者はチーム医療を実践している看護師247名である。調査内容は対象者の基本的属性および「多職種との連携において大切にしていること」の自由記述である。分析は、テキストマイニングによる、①単語頻度分析②ことばネットワーク分析である。

【結果】単語頻度分析の結果、《チームメンバー》、《チーム》、《多職種》、《コミュニケーション》、《自分》が頻出単語上位5位までを占めていた。ことばネットワーク分析の結果では、ネットワークは大きく4つのクラスターに分かれ、それらは【チームの人間関係やコミュニケーションを大切にする】【多職種の専門性や価値観を尊重する】【チームメンバーへの対応と働きかけ】【チームの中で自分の基本姿勢を持つ】の4つであった。

【考察】チーム医療を実践している看護師は、チームの目標を定めながら、チーム内での人間関係やコミュニケーションを大切にしていた。また、チームが目標に向けてうまく機能するために、多職種の専門性や価値観を尊重しながらメンバーに関わっており、チームメンバーへの対応として、メンバーの意見を尊重しながら自分の意見を述べるなど、相手の立場を尊重したアサーティブな対応を行っていた。チーム医療を実践している看護師は、多職種からなるチーム医療のキーパーソンとして、チーム作りを意識した働きかけを行っていた。

キーワード：チーム医療，看護師，連携・協働，大切にしている行為，テキストマイニング

I. はじめに

医療技術が発展し、国民の医療に関する意識が高まり医療情報が入手しやすくなった現代では、長期的な療養の視点に立った医療提供が欠かせない。患者のニーズに即した良質な医療サービスを提供するためには、専門多職種との連携を強化し、チーム医療を推進していくことが重要である。細田は、チーム医療を可能にするためには患者を取り囲む、看護師、医師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士など、それぞれの職種が高度な専門性をもつことが必要であると述べている¹⁾。また、専門多職種の中でも、24時間患者のそばにいる看護師には、日常生活行動や安楽を確保するための援助だけではなく、チーム医療のキーパーソンとしての役割を担うことが期待されている。

わが国におけるチーム医療に関する研究は、細田によると1987年から「チーム医療」という言葉が使われるようになり、1987年34件、1997年280件、2007年4387件と急速に増加しており²⁾、その内容は、チーム医療の実践報告や会議録などが主である。チーム医療に携わる看護師に関する研究では、看護師を含む多職種のチーム医療についての認識に関する研究^{3,4)}や、多職種連携における看護師の役割に関する研究⁵⁻⁷⁾がある。しかし、チーム医療を行っている看護師の活動の実際や思いを明らかにした研究はみられなかった。現場の視点からチーム医療を実践している看護師の活

動内容や思いを明らかにすることは、これからのチーム医療の理論構築に貢献すると考える。

そこで、われわれは、チーム医療を実践する6名の看護師にインタビューを行い、チーム医療を実践する看護師が重視していることを明らかにした⁸⁾。また、63施設の看護師を対象に行った、チーム医療を実践するための能力に関する質問紙調査では、チーム医療を推進するために看護師が獲得する必要がある能力を示した⁹⁾。さらに、チーム医療を行う看護師への質問紙調査の中で、看護師が感じる困難を明らかにし、困難を克服するためにコミュニケーション力、調整能力、問題解決能力、さらにリーダーシップおよび新しい価値観を受け入れていく柔軟性が必要であることを提言した¹⁰⁾。

今回、われわれはチーム医療を実践している看護師が大切にしている「行為」に着目し、看護師個々が多職種との連携・協働で行っている具体的活動を明らかにしたいと考えた。従来から、看護学、情報処理、文学、歴史や教育など様々な分野において、質的研究に内容分析を用いた研究がなされてきた。1990年代以降、内容分析は、コンピュータを利用したコーディングのみならず、 χ^2 乗検定、クラスター分析、主成分分析、数量化分析が主流になった。データマイニング、言語処理、テキスト解析、形態素解析、分かち書きなど様々な名称で用いられているが、特に自由記載の調査票の分析に有効であるといわれている¹¹⁾。服部によると、テキストマイニングの目標はテキストデー

タから新しい情報を発見する、あるいは引き出す、データ集合全体に通底するパターンを見つける¹²⁾ことであり、テキストという観察されるデータ集合から既知の情報を検索するだけでなく、テキストデータの背後に隠されている人間の行動、関係、意識、期待といった潜在変数を探し当てること¹³⁾であるとされる。

わが国では、2002年から医療看護領域で、テキストマイニングを用いた研究が行われるようになり¹⁴⁾、実習レポートから学生の学びの体験を明らかにしようとしたもの¹⁵⁻¹⁷⁾や、看護師へのインタビュー記録から体験や思いを明らかにしようとしたもの^{18,19)}などがみられる。本研究では、チーム医療を実践している看護師への自由記載の調査票から、テキストマイニングを用いて「名詞」「動詞」に焦点を当てて分析することで、他職種と連携・協働する上で看護師が大切にしている行為を可視化することを試みた。

II. 研究目的

チーム医療を実践している看護師が大切にしている行為についてその具体的内容を明らかにし、看護師が多職種とよりよく連携・協働するための方略を考察する。

III. 用語の操作的定義

1. チーム医療

本研究では、チーム医療を鷹野によるチーム医療の3類型のうち、「機能的チーム医療」として捉える²⁰⁾。NSTや褥瘡対策、医療安全などのように、「共通の高次の目標を共有して専門多職種が連携し、患者を中心として問題解決のために協働すること」と定義する。

2. 連携・協働

連携とは、連絡を取り合って一緒に物事を行うこと、コーポレーション (cooperation) であり、協働とは、同じ目標のもとに、ともに力を合わせて活動することで、コラボレーション (collaboration) やパートナーシップ (partnership) ともいわれる。チームにおける連携と協働には様々なレベルがあるが、本研究では近藤によるチーム発展の4段階のうち「連携・協働モデル」の概念を参考に、連携・協働をひとつの概念にとらえ「チームとして意思決定を行い、責任は全員で負う。情報がチームの中で共有され、仕事の重なりをもちながらも専門性を発揮すること」²¹⁾と定義する。

3. 行為

行為とは、個人がある意思・目的を持って意識的にする行いをいい、哲学では自由な意思に基づいて選択され、実行された身体動作で道徳的評価の対象となるものを指す²²⁾。本研究では、「行為」を看護師個人がチーム医療を行う中で目的を持って意識的にする行いと定義する。

IV. 研究方法

1. 調査対象者

西日本の3府県内の300床以上を有する病院(218施設)のうち、本研究の調査に協力が得られた63施設において、専門多職種によって構成される医療チームに所属する看護師444名。

2. データ収集方法と調査内容

調査方法は、西日本の3府県内の300床以上を有する病院の看護部長に対し、調査への協力依頼、研究の趣旨、方法を記載した用紙を郵送し、協力できる場合には、対象となる看護師の人数、調査の窓口となる人の名前を返信用はがきに記入の上、返送してもらった。次に、同意が得られた施設の看護部長宛てに、研究への協力依頼用紙、質問紙調査票、返信用封筒を人数分郵送し、対象者への配布を依頼した。回収は、質問紙調査票への記入後、対象者が個人で封をして個別に返送してもらった。

調査内容は、対象者の基本的属性(年齢、職位、看護職経験年数、所属する医療チーム、チーム医療の経験年数)、勤務する病院の概要(設置主体)、および「多職種との連携において大切にしていること」の自由記述である。

3. 調査期間

平成23年1月20日~2月28日

4. 分析方法

1) 本研究はText Mining Studio Ver 4.1(数理システム)を用いて分析した。テキストマイニングは、文章という定性的なテキスト情報を、系統的に、分析手続きのエビデンスを残しながら処理する情報処理ツールである²³⁾。今回用いた分析は①単語頻度分析(どのような単語が何回出現するかカウントする)、②ことばネットワーク分析(単語間の共起関係を抽出して有向グラフとして出力する)である。

2) テキストマイニングの分析手続き

- (1) 質問紙の自由記述から大切にしている内容を文脈ごとに抽出し Excel ファイルに入力し, Excel ファイルから Comma Separated Values (以下 CSV) 形式によるファイル形式を作成した。
- (2) Text Mining Studio Ver 4.1 に CSV ファイルで保存したデータを読み込み, 抽出設定の頻度を2回以上, 抽出品詞を「名詞」「動詞」に設定し, 分かち書き(単語分割: word segmentation) とことばネットワーク分析を実行した。
- (3) 入力し終わったデータの中で, 「看護師」「ナース」「看護婦」などの同じ意味の単語が別の表現で記入されていないか見直し, 類義語を統制した。その後, 分かち書きとことばネットワーク分析を再度実行した。
- (4) 類義語を統制した後のデータで単語頻度分析を実行した。

5. 倫理的配慮

実施にあたり, 対象病院の看護部長に研究の趣旨を

文章で説明し同意を得た。研究協力者への倫理的配慮, 権利の保障のために, (1) プライバシー・匿名性・機密性確保の権利の保障, (2) 研究目的・内容を知る権利の保障, (3) 不利益を受けない権利の保障, (4) 自己決定の権利の保障について質問紙調査票送付の際に添付する研究協力依頼書に明記した。また, 質問紙は無記名とし, 回収は個々に配布した封筒を用いて個別に返送してもらう方式をとり, 施設内のポジションパワーの影響を受けないよう配慮し, 質問紙の返送をもって同意を得たものとした。

本研究は, 平成22年度の甲南女子大学倫理審査委員会の承認を得て実施した。

V. 結 果

1. 対象者の背景

対象者の背景を表1に示す。本研究では218施設に協力を依頼し, 同意の得られた63施設444人に質問紙を配布した。回答の得られた280人(63.1%)のうち, 多職種で構成されるチーム医療に参加していない

表1 対象者の背景

N=247

| 項目 | | 人 (%) | 項目 | | 人 (%) |
|-------------------------|--------------|-----------|----------------|-----------|-----------|
| 年齢 | 平均値±SD | 43.1±8.0 | 設置主体 | 国公立 | 73(29.6) |
| | 20～30歳未満 | 11(4.5) | | 独立行政法人 | 40(16.2) |
| | 30～40歳未満 | 72(29.1) | | その他 | 132(53.4) |
| | 40～50歳未満 | 113(45.7) | | 不明 | 2(0.8) |
| | 50～60歳未満 | 47(19.0) | | 病床数 | 300～399床 |
| | 60歳以上 | 3(1.2) | 400～499床 | | 67(27.1) |
| | 不明 | 1(0.4) | 500～599床 | | 23(9.3) |
| 性別 | 女性 | 229(92.7) | 600～699床 | 18(7.3) | |
| | 男性 | 18(7.3) | 700～799床 | 7(2.8) | |
| 職位 | 看護部長 | 3(1.2) | 800床以上 | 21(8.5) | |
| | 副看護部長または看護次長 | 23(9.3) | その他 | 10(4.0) | |
| | 看護師長 | 97(39.3) | 所属チーム | 褥創対策チーム | 48(19.4) |
| | 主任または副看護師長 | 54(21.9) | | 感染防止対策チーム | 42(17.0) |
| | スタッフ | 42(17.0) | | 医療安全対策チーム | 41(16.6) |
| | その他 | 27(10.9) | | 緩和ケアチーム | 31(12.6) |
| 不明 | 1(0.4) | 栄養サポートチーム | | 23(9.3) | |
| 看護職経験年数 | 平均値±SD | 20.7±8.0 | | 地域連携チーム | 17(6.9) |
| | 10年未満 | 22(8.9) | | 呼吸ケアチーム | 16(6.5) |
| | 10～20年未満 | 82(33.2) | | 糖尿病ケアチーム | 11(4.5) |
| | 20～30年未満 | 111(44.9) | | その他 | 2(0.9) |
| | 30～40年未満 | 32(13.0) | | 不明 | 16(6.5) |
| | 40年以上 | 0(0.0) | チーム内における役割 | チームリーダー | 33(13.4) |
| 所持している 上級看護実践 者資格 | 専門看護師 | 2(0.8) | | チームサブリーダー | 75(30.4) |
| | 認定看護師 | 80(32.4) | | チームメンバー | 110(44.5) |
| | なし | 165(66.8) | | その他 | 15(6.1) |
| チーム医療の 経験年数 | 平均値±SD | 3.6±2.1 | | 不明 | 14(5.7) |
| | 3年未満 | 98(39.7) | 所属チームの リーダー | 看護職 | 58(23.5) |
| | 3年～6年未満 | 92(37.2) | | 医師 | 148(59.9) |
| | 6年～9年未満 | 29(11.7) | | その他 | 18(7.3) |
| | 9年以上 | 15(6.1) | | 不明 | 23(9.3) |
| | 不明 | 13(5.3) | | | |

対象者からの回答は無効とし、247人のデータを分析対象とした。

対象者の平均年齢は43.1 (SD 8.0) 歳、職位は看護師長 97人 (39.3%)、主任または副看護師長 54人 (21.9%) であり、看護部長、副看護部長または看護次長を含めると役職者が約7割を占めていた。

対象者の所属する医療チームは、褥瘡対策チーム 48人 (19.4%)、感染防止対策チーム 42人 (17.0%)、医療安全対策チーム 41人 (16.6%) 等であった。チーム医療の経験年数は3年未満 98人 (39.7%)、3年以上6年未満 92人 (37.2%) であり、平均 3.6 (SD 2.1) 年であった。

2. 自由記述内容のテキスト分析

以下、抽出単語を《 》、共起関係を「-」、クラスターを【 】、原文を「 」で示す。

1) 単語頻度分析の結果

247人の自由記述データのうち、看護師が多職種と連携する上で大切にしている内容を記述しているのは134人であり、抽出された文脈は168文脈であった。

168文脈中の単語の出現頻度を分析した。単語総数は674単語、単語種別数は86単語であった。単語の出現頻度グラフに近似曲線を描き、出現頻度の低下傾向を見ると、21位以降で出現率が低下し、グラフが平坦化したため、図1に1~20位までの単語と、その出現頻度を示した。

最も多く出現した単語は《チームメンバー》で85回、以下《チーム》60回、《多職種》52回、《コミュニケーション》34回、《自分》30回、《理解》22回、《チームリーダー》21回などであった。

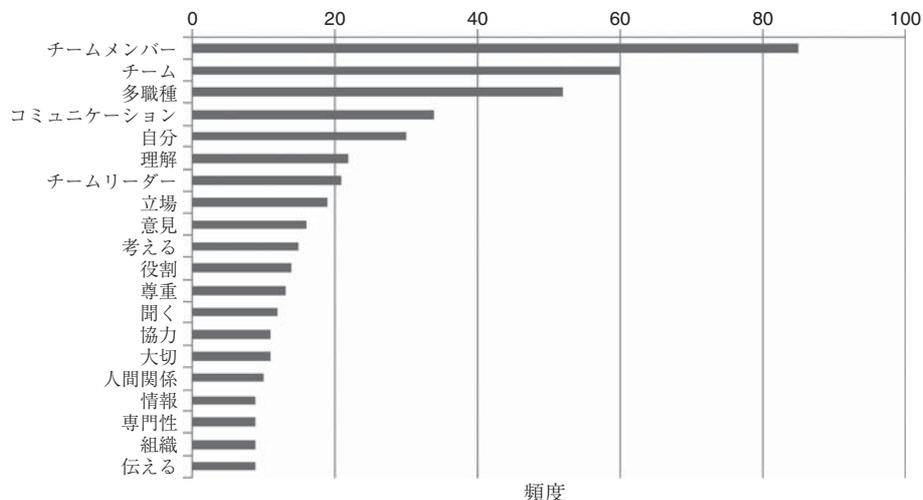


図1 単語頻度分析

2) ことばネットワーク分析

図2は看護師が多職種連携の中で大切にしていると記述した文脈のことばネットワーク全体を有向グラフで示したものである。グラフの要素である頂点を色つきの丸印(ノード)で表現し、個々のノードはそれぞれの単語頻度を表している。出現回数の多い単語ほど、大きなノードで表現される。ノードを結ぶ矢印(エッジ)は文脈中での共起関係を表現しており、エッジの太さで共起関係の頻度を表している²⁴⁾。

図2の有向グラフの中から、共起関係が2回以下の組み合わせを排除したところ、4つのクラスターに分けられた。これらを破線の丸印で囲み、A、B、C、Dとした。

左上《チーム》を中心としたことばネットワークをクラスターA、右上《多職種》を中心としたことばネットワークをクラスターB、左下《チームメンバー》を中心としたことばネットワークをクラスターC、右下《自分》を中心としたことばネットワークをクラスターDとして、以下、それぞれのクラスターごとに結果を述べていく。

(1) A:《チーム》を中心としたことばネットワーク

クラスターAは《チーム》という単語を中心としたことばネットワークである。《チーム》の周囲に《コミュニケーション》《人間関係》《組織》《構築》《密》《決める》などのノードが集まり、《チーム》と矢印(エッジ)で結ばれた単語の共起関係が抽出された。単語間の共起関係の出現頻度は、《チーム》-《人間関係》の共起関係が最も多く、9回抽出された。次に《コミュニケーション》-《とる》5回、《コミュニケーション》-《良好》4回、《コミュニケーション》-《図る》4回、《チーム》-《円滑》3回、《チーム》-《目

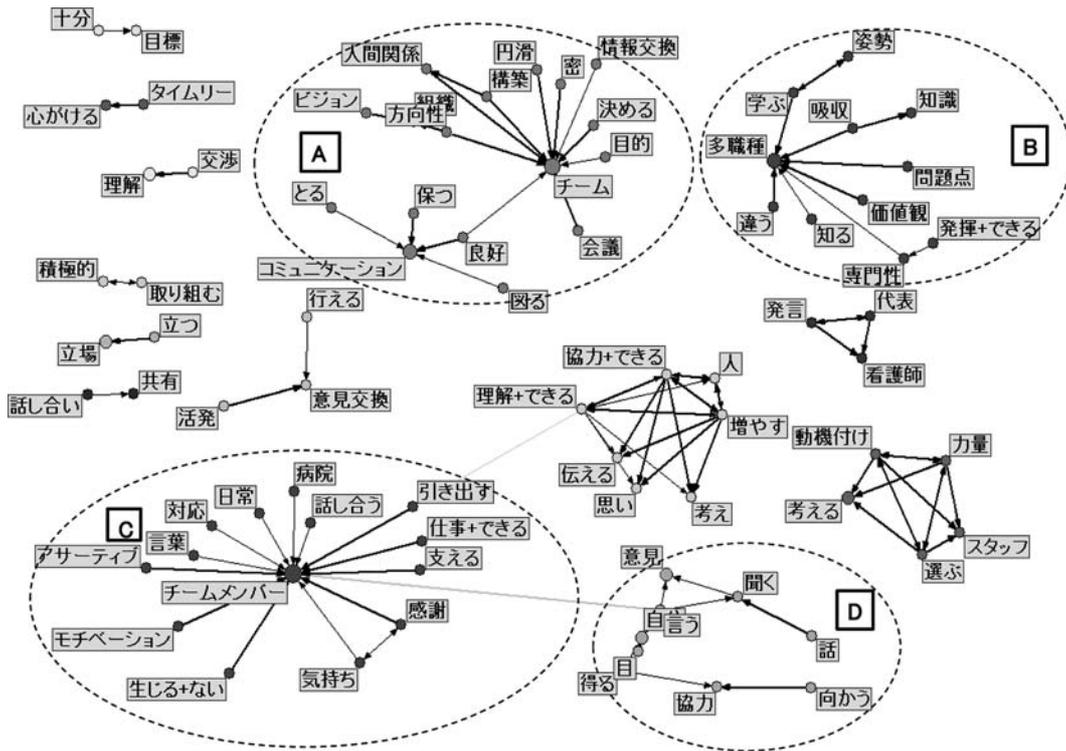


図2 看護師が多職種連携の中で大切にしている行為のこばネットワーク

表2 《チーム》を中心とした共起関係と原文

| 結論単語 | 前提単語 | 原文 |
|-----------|------|--|
| チーム | 人間関係 | チームの人間関係 チームの人間関係が大切でありコミュニケーションを図ることが大切 日頃からのチームの人間関係を大切にする チームの人間関係を大切にするように心がける チームの人間関係、思いやりを大切にする チームの人間関係 チームがコミュニケーションをとり、人間関係を築き情報交換をしておく チームの日常の人間関係の構築 チームの人間関係の構築 |
| | 円滑 | チームの情報伝達が円滑にいくように配慮 チームのコミュニケーションを円滑にする チームが円滑にコミュニケーションがとれるように関わる |
| | 目的 | チームの目的を明確にすること チームの目的と目標は患者の安全確保であることを共通認識する チームの役割や目的をメンバーに周知してもらう |
| | 良好 | チームのコミュニケーションを良好にとること チームのコミュニケーションを良好にとること チームの良好なコミュニケーション |
| コミュニケーション | とる | チームメンバーとコミュニケーションをとる チームのコミュニケーションを良好にとること チームのコミュニケーションを良好にとること チームがコミュニケーションをとり、人間関係を築き情報交換をしておく チームメンバーの立場やプライド、経験を重視してコミュニケーションをとる |
| | 良好 | チームのコミュニケーションを良好にとること チームのコミュニケーションを良好にとること コミュニケーションを良好に保つこと チームの良好なコミュニケーション |
| | 図る | チームの人間関係が大切でありコミュニケーションを図ることが大切 チームメンバーに直接対面してコミュニケーションを図る チームでのコミュニケーションを図るよう努力 チームで普段から密接にコミュニケーションを図る |

的》3回，《チーム》-《良好》3回であった。

表2に《チーム》を中心とした共起関係のうち、3回以上の共起関係が抽出された単語の組み合わせとその原文を示す。「チームの人間関係が大切でありコミュニケーションを図ることが大切」、「日頃からのチームの人間関係を大切にする」、「チームで普段から密接にコミュニケーションを図る」など、チーム内のコミュニケーションや人間関係を大切にしているという記述が多く見られ、多職種チーム内で看護師が人間関係やコミュニケーションを大切にしていることが示された。以上より、クラスターAを【チームの人間関係やコミュニケーションを大切にする】とした。

(2) B：《多職種》を中心としたことばネットワーク

クラスターBは《多職種》という単語を中心としたことばネットワークである。単語間の共起関係の出現頻度は、《多職種》-《専門性》7回、《多職種》-《知る》3回、《専門性》-《発揮+できる》3回であった。

表3に《多職種》を中心とした共起関係と原文を示

す。「多職種の専門性の向上」、「多職種の人たちが専門性を発揮できるような調整」、「多職種の専門性や価値観の相違をよく理解する」、「チームメンバーそれぞれの専門性が発揮できるように関わる」などの記述がみられ、チーム医療を行う看護師は多職種の専門性を理解・尊重し、多職種が専門性を発揮できるような調整を大切にしていることが示され、クラスターBを【多職種の専門性や価値観を尊重する】とした。

(3) C：《チームメンバー》を中心としたことばネットワーク

クラスターCは《チームメンバー》という単語を中心としたことばネットワークである。単語間の共起関係の出現回数は、《チームメンバー》-《対応》4回、《チームメンバー》-《話し合う》4回、《チームメンバー》-《病院》3回、《チームメンバー》-《感謝》3回であった。

表4に《チームメンバー》を中心とした共起関係と原文を示す。「チームメンバーが win-win になれるよ

表3 《多職種》を中心とした共起関係と原文

| 結論単語 | 前提単語 | 原文 |
|------|--------|--|
| 多職種 | 専門性 | 多職種の専門性の向上 多職種の専門性や役割を理解、尊重する 多職種の専門性について敬意をはらいアドバイスを受ける 多職種の専門性を尊重する 多職種の人たちが専門性を発揮できるような調整 多職種の専門性を活かす 多職種の専門性や価値観の相違をよく理解する |
| | 知る | 多職種を知ること、自分を知ってもらうこと 多職種を知る 多職種の話を聞き状況を知る |
| 専門性 | 発揮+できる | チームメンバーが持ち味を引き出しそれぞれの専門性が発揮できるようにする 多職種の人たちが専門性を発揮できるような調整 チームメンバーそれぞれの専門性が発揮できるように関わる |

表4 《チームメンバー》を中心とした共起関係と原文

| 結論単語 | 前提単語 | 原文 |
|---------|------|---|
| チームメンバー | 対応 | チームメンバーが win-win になれるような対応 チームメンバーへのアサーティブな対応 チームメンバーに対しさわやかな対応、誠実に対応 チームメンバーに対し怒りなど強い感情をぶつけず冷静に対応する |
| | 話し合う | よくチームメンバーで話し合う チームメンバーにメールではなく、直接会って話し合う チームメンバーをよく知り合うことも必要なので、コミュニケーションや日常の中から良い関係を保つよく話し合い、意見交換を活発に行う チームメンバーとよく話し合い、意見交換を活発に行う |
| | 病院 | チームメンバーが病院をよくしたいという意欲的な考えをもつ チームメンバーが同じ病院の一員であることを認識する チームメンバーに感謝の気持ち伝え共に病院を支えているということを思ってもらえるようにモチベーションをあげるようなかわり |
| | 感謝 | チームメンバーに感謝を示すこと チームメンバーへ感謝する気持ちを忘れない チームメンバーに感謝の気持ち伝え共に病院を支えているということを思ってもらえるようにモチベーションをあげるようなかわり |

表5 《自分》を中心とした共起関係と原文

| 結論単語 | 前提単語 | 原文 |
|------|------|--|
| 意見 | 聞く | 多職種それぞれの立場からの意見を十分に聞き同じ目標に向かっていくうえでどのように協力すれば目標が達成できるかを考える 自分が意見を出し他者の意見を聞き、受け入れ、一緒に活動していく 多職種の意見をよく聞く チームメンバーそれぞれの考えや意見を聞く 多職種の方の意見をきちんと聞く チームメンバーも自分の意見を聞いてくれることでさらに良い意見が生まれ、またそれがよい連携を生む チームメンバーの意見を聞いてから自分の意見を言う まずチームメンバーの話を読みそれから自分の意見を言う |
| 聞く | 話 | チームメンバーの話を読み まずチームメンバーの話を読みそれから自分の意見を言う 多職種の話を聞き状況を知る |
| 自分 | 得る | 自分が協調し他職種の協力が得られやすいように接する ある程度自分もやった上で多職種のスタッフにも協力を得る 自分が正確な情報を得る、情報に基づいて分析する、自分の目で得た情報を確認する |
| 協力 | 得る | 自分が協調し他職種の協力が得られやすいように接する ある程度自分もやった上で多職種のスタッフにも協力を得る 多職種に協力を得るために情報収集をして進めていくうえの方法を考える |

うな対応」,「チームメンバーにはメールではなく、直接会って話し合う」,「チームメンバーとよく話し合い、意見交換を活発に行う」,「チームメンバーに感謝の気持ち伝え、共に病院を支えているということをもってもらえるようにモチベーションを上げるようなかわり」など、チームメンバーへの冷静な対応を行いながら、メンバーに感謝と尊重の思いを示すなどの関わりを行っていることが示され、クラスターCを【チームメンバーへの対応と働きかけ】とした。

(4) D:《自分》を中心としたことばネットワーク

クラスターDは《自分》という単語を中心としたことばネットワークである。単語間の共起関係の出現回数は、《意見》-《聞く》8回、《聞く》-《話》3回、《自分》-《得る》3回、《協力》-《得る》3回であった。

表5に《自分》を中心とした共起関係と原文を示す。「自分が意見を出し他者の意見を聞き、受け入れ、一緒に活動していく」,「多職種の方の意見をきちんと聞く」,「まずチームメンバーの話を読みそれから自分の意見を言う」,「自分が協調し多職種の協力が得られやすいように接する」など、自分の意見を言うだけでなく、相手の意見を大切にしながら協力体制を構築している様子が示され、クラスターDを【チームの中で自分の基本姿勢を持つ】とした。

VI. 考 察

今回、チーム医療を行う看護師が多職種との連携・協働において大切にしている行為を、自由記述の文脈内容からテキストマイニングの手法を用いて分析し

た。その結果、看護師が大切にしている行為のことばネットワークは【チームの人間関係やコミュニケーションを大切にする】、【多職種の専門性や価値観を尊重する】、【チームメンバーへの対応と働きかけ】、【チームの中で自分の基本姿勢を持つ】、の4つのクラスターに分類された。以下、これらのクラスターについて考察をすすめていく。

1. チームの人間関係やコミュニケーションを大切に

ことばネットワーク分析の結果、《チーム》を中心として、《人間関係》、《コミュニケーション》、《円滑》、《目的》、《良好》などの単語との共起関係が抽出され、チーム医療を行う上で看護師はチームの人間関係やコミュニケーションを大切にしていることが示された。

より質の高い入院生活や療養生活を支えるためには、患者本人だけでなく家族のニーズに合わせた生活全般を支えるためのケア・マネジメントが求められる。その中で看護師は、患者のもっとも身近な存在として、医療チームに患者や家族の思いを伝え、多職種と連携・協働しながら、チーム・アプローチを遂行していくキーパーソンとしての役割を期待されている。しかし、看護師は、チームメンバー間の専門性の違いや目標の不一致から、困難を感じる事が多く、特に医師との関係では、医師の非協力と看護師の医師に対する依存といった、医師-看護師の共依存関係がチーム医療の推進に影響を与えているという指摘もあり²⁵⁾、現実の医療チームの中では、人間関係の調整は

難しいことも多い。

神谷らは看護師が多職種との協働において重視していることとして人間関係能力の存在を示唆しており²⁶⁾、遠藤らの調査でもチーム医療を行う看護師が【人間関係】、【効果的なコミュニケーション】に関連する能力を最も発揮していると感じていたと報告している²⁷⁾。今回のわれわれの調査結果とも一致した内容であり、看護師はチーム内でのコミュニケーションを重視しながらチーム内での人間関係の調整役としての役割を意識的に担っていると考えられた。

また、クラスター A では、《チーム》-《目的》、《ビジョン》-《組織》の共起関係も抽出され、自由記述の原文にも「チームの目的を明確にすること」、「チームの役割や目的をメンバーに周知してもらう」という記述がみられた。これは、看護師は、単にチーム内の人間関係やコミュニケーションを図るだけではなく、医療チームの目標を定め、組織の中でどのような役割を担っているかを把握し、チームの目的やビジョンを多職種と共有することを意図したコミュニケーションをしていると考えられた。細田が、患者にとっての最善の方法を巡って真摯に議論を重ねることは、チーム医療の生命線であり、衝突や議論を避けることが日常化すればチームの活動の存在意義を失いかねない。すなわち、患者の利益のために各メンバーが議論を尽くすことで、チームとしての活動が可能になる²⁸⁾と指摘するように、本研究の対象者である看護師はチームの目標を達成するための円滑なコミュニケーションを図る上で、重要な役割を担っていることが示唆された。

2. 多職種の専門性や価値観を尊重する

ことばネットワーク分析の結果、《多職種》を中心に《専門性》、《知る》、《価値観》、《問題点》、《吸収》、《学ぶ》、《姿勢》などの単語との共起関係が抽出され、看護師がチーム医療を行う上で多職種の専門性や価値観を尊重する姿勢を大切にしていることが示された。

細田はチーム医療の4つの要素のうち「専門性志向」と「患者志向」、「職種構成志向」と「協働志向」が相容れない緊張関係に陥りやすいと指摘し、その緊張関係がチーム医療の困難さを形作る要因になっていると述べている²⁹⁾。多職種の自己の専門性への固執が他のメンバーとの意見の対立を招き、連携・協働していくことを阻害しチームメンバーのモチベーションにも影響するとされており³⁰⁾、それを防止するためには、多職種の専門性や多様な価値観を認め、多職種を

尊重しつつ連携を行っていくことが必要である³¹⁾と考えられる。対象者の記述内容からも、「多職種の専門性や価値観の相違をよく理解する」、「多職種の人たちが専門性を発揮できるような調整」、「専門性が発揮できるように関わる」などの文脈がみられ、看護師がチーム医療を行う上で、多職種の専門性を尊重し、ともに協働することが必要であると考えられた。

3. チームメンバーヘアサーティブに対応する

ことばネットワーク分析の結果、《チームメンバー》を中心としたクラスターでは、《対応》、《話し合う》、《感謝》、《モチベーション》、《アサーティブ》などの多くの単語との共起関係が抽出され、看護師がチームメンバーとの関係構築を重視していることが示唆された。特に《チームメンバー》-《対応》の共起関係の原文をみると、「チームメンバーが win-win になれるような対応」「チームメンバーへのアサーティブな対応」「チームメンバーに対しさわやかな対応、誠実な対応」「チームメンバーに対し怒りなど強い感情をぶつけず冷静に対応する」とあり、看護師がチームメンバーと協働する上での具体的な行動を注意深く考え、実践していることが示唆された。

また、《自分》を中心としたクラスターでは、《意見》、《言う》、《聞く》を中心として《協力》、《得る》、《向かう》など多くの単語との共起関係が抽出され、看護師がチームメンバーと接する時に相手の話を聞き、協力が得られやすいような態度を大切にしていると考えられた。原文の記述内容からも、「チームメンバーの意見を聞いてから自分の意見を言う」「自分が協調し多職種の協力が得られやすいように接する」などの文脈があり、看護師がチームの一員として、メンバーと協力関係を築けるような姿勢を大切にしていることが示された。

以上から、【チームメンバーへの対応と働きかけ】、【チームの中で自分の基本姿勢を持つ】の2つのクラスターより、チームメンバーと協働するためにアサーティブな対応の重要性が示されたと考えられる。近年、コミュニケーションスキルのひとつで、人間関係を円滑にしていくためのソーシャルスキルの基本としてアサーティブの重要性が注目されている。糸嶺ら³²⁾、Suzuki ら³³⁾は新卒看護師のアサーティブネスとリアリティ・ショック、バーンアウトとの関連を指摘し、卒後教育にアサーティブネス・トレーニングを取り入れる必要性を主張している。また、看護管理者であっても諸外国の看護師よりもアサーティブに自己表

現ができていない状況にあるといった報告もある³⁴⁾。したがって、看護師が日常業務を円滑に遂行するためにはアサーティブネスが重要であり、様々な職種や地位にあるチームメンバーとの協同・連携を推進するためには、看護師のみならず、すべての職種が「他人の権利を尊重しながら自分の権利を守ることを基本にし、無理なく自分を表現するためのコミュニケーション能力」³⁵⁾としての、アサーティブネスを身につけることが必要であると考えられる。

4. 多職種チーム連携・協働を行う上で必要な行為

本研究では、看護師がチーム医療のなかで大切にしていると回答した記述内容から、【チームの人間関係やコミュニケーションを大切にする】【多職種の専門性や価値観を尊重する】【チームメンバーへの対応と働きかけ】【チームの中で自分の基本姿勢を持つ】の4つのクラスターが抽出された。細田はチーム医療の要素を4つあげ、そのうち、「専門性志向」と「患者志向」、「職種構成志向」と「協働志向」が相容れない緊張関係に陥りやすく、その緊張関係がチーム医療の困難さを形作る要因になっていると指摘する³⁶⁾。今回抽出された4つのクラスターは、細田の「協働志向」に基づいたものであり、看護師が他の専門職との協働を推進するための行為を大切にしていることが明らかになった。吾妻らも、看護師は他の医療スタッフとのモチベーションに温度差を感じ、チームメンバーのモチベーションを高めることについて困難を感じていた³⁷⁾と指摘している。今後、より良い連携・協働を行うためには、多職種と目標を共有し、チームに巻き込みながら、職種間の温度差を解消していく努力が必要であると考えられる。

また、医療チームの中で、看護師は患者にもっとも近い存在として、患者の心理社会面、思いや今後の方向性などを代弁でき、チームの専門多職種の調整役として、力を発揮できる職種である。しかし、今回の調査から患者志向に関する行為は抽出されなかった。今後、さらに対象者を増やしたり、設問を工夫して、チーム医療における行為の分析を続ける必要があると考える。

Ⅶ. おわりに

今回、対象者を看護師に限定していたため、看護師から見たチーム医療における行為にとどまっている。今後は対象を多職種に広げ、調査を行うことで多職種

との連携・協働において必要な行為がさらに抽出されると思われる。

また、本研究はテキストマイニングの手法を用いることで、チーム医療において看護師が大切にしていると記述した多量のデータを可視化することができた。テキストマイニングには、テキストデータから、研究者が予測し得なかった興味深い仮説を発見できる可能性がある³⁸⁾。しかし、その限界として、自然言語の中でのテキストデータが文脈のなかでさまざまな意味をもち、その意味の解釈が複雑であること、またテキストデータのなかにノイズが含まれていることから解釈がさらに困難であることもあげられている³⁹⁾。今後も多様なテキストデータを用いて、テキストの種類に応じた分析方法を用い、適切に解釈できるよう、研鑽をおこなってきたい。

本研究の趣旨をご理解いただき、調査にご協力いただいた看護師の皆様へ深く感謝いたします。

文 献

- 1) 細田満和子：「チーム医療」とは何か。日本看護協会出版会、東京、2012、38-43.
- 2) 前掲書1)：2-3.
- 3) 三井明美、島田明美、谷口直子他：医療現場における「チーム医療」の認識-アンケート調査結果から-。岡山大学医学部保健学科紀要 2002；13：25-36.
- 4) 坂梨薫、中村裕美子、山中道代他：専門職の職種、職位別にみたチーム医療の認識に関する研究。広島県立保健福祉大学誌 人間と科学 2004；4(1)：47-59.
- 5) 大谷京子：職種の役割と多職種間連携。精リハ誌 2008；12(1)：34-39.
- 6) 松岡千代：多職種間連携の中で発揮すべき看護師の役割。臨床老年看護 2009；16(1)：23.
- 7) 眞嶋朋子：コメディカルスタッフの新たな役割-看護師の立場から-。日本心臓リハビリテーション学会誌 2009；14(1)：49-51.
- 8) 神谷美紀子、遠藤圭子、岡崎美晴：チーム医療を推進するうえで看護師が重視していること-協働における看護師に必要な能力の検討に向けて。第30回日本科学学会学術集会講演集 2010；30：270.
- 9) 遠藤圭子、岡崎美晴、神谷美紀子他：チーム医療を推進する看護師に必要なとされる能力の検討-多職種と連携する看護師への調査から-。甲南女子大学研究紀要 看護学リハビリテーション学編 2012；6：17-29.
- 10) 吾妻知美、神谷美紀子、岡崎美晴他：チーム医療を実践している看護師が感じる連携・協働の困難。甲南女子大学紀要 看護学・リハビリテーション学編 2013；7：23-33.
- 11) 上野栄一：内容分析の歴史と質的研究の今後の課題。富山医科薬科大学看護学会誌 2004；5(2)：1-18.
- 12) 服部兼敏、鷺田万帆：学際的技術としてのテキスト

- マイニング－その意義と看護における可能性－. 看護研究 2008; 41(3): 239-258.
- 13) 前掲書 12): 239.
- 14) 前掲書 12): 243.
- 15) 田中智美, 瀧川薫, 上野栄一: データマイニングを用いた精神看護学実習における学習内容の分析. 滋賀医科大学看護学ジャーナル 2011; 9(1): 67-72.
- 16) 安田千寿, 北村隆子, 畑野相子: 学生の実習経験と老年看護実習における学びの特徴－テキストマイニングによる自由記述回答の分析－. 人間看護学研究 2011; 10: 95-100.
- 17) 小松光代, 山縣恵美, 杉原百合子他: 老年看護学実習における認知症対応型通所介護サービスでの学びと今後の課題～テキストマイニングソフトによる実習記録の分析を通して～. 京府医大看護紀要 2011; 21: 77-84.
- 18) 加藤千佳, 城丸瑞恵, いとうたけひこ: テキストマイニングを用いた病棟看護師の実習指導に対する語りの分析. 昭和大学保健医療学雑誌 2011; 8: 23-32.
- 19) 松浦純平, 喜田加奈子, 福田弘子他: テキストマイニングによる看護師の考える術後せん妄発症予測について. 日本看護学会論文集 成人看護 I 2012; 42: 62-65.
- 20) 鷹野和美: チーム医療論－チーム医療の教育－患者中心のチーム医療をめざして－. 医歯薬出版株式会社, 東京, 2006, 98-99.
- 21) 近藤克則: 連携から統合へ－看護師に必要なマネジメント能力. Nursing Today 2007; 22(8): 42-45.
- 22) 大辞林第3版.
- 23) 前掲書 12): 239.
- 24) 服部兼敏: テキストマイニングで広がる看護の世界. ナカニシヤ出版, 京都, 2010: 135.
- 25) 前掲書 10): 31.
- 26) 前掲書 8): 270.
- 27) 前掲書 9): 28.
- 28) 前掲書 1): 86.
- 29) 前掲書 1): 86.
- 30) 前掲書 10): 29.
- 31) 前掲書 20): 98-99.
- 32) 糸嶺一郎, 鈴木英子, 叶谷由佳他. 大学病院に勤務した新卒看護師のリアリティ・ショックに関与する要因. 日本看護研究学会雑誌 2006; 29(4): 63-70.
- 33) Suzuki E, Kanoya Y, Katsuki T, et al. Assertiveness affecting burnout of novice nurses at university hospitals. Japan Journal of nursing Science 2006; 3: 93-105.
- 34) 鈴木英子, 吾妻知美, 齋藤深雪他. 重症身体障害者施設の看護管理者のアサーティブネスとアサーティブになれない状況の実態. 日本看護管理学会誌 2009; 12(2): 74-85.
- 35) 勝原裕美子: Be アサーティブ 現場に活かすトレーニングの実際. 2003. 医学書院. 39-43.
- 36) 前掲書 1): 38.
- 37) 前掲書 10): 32.
- 38) 鷺田万帆, 服部兼敏: 看護におけるテキストマイニングとその活用事例. 看護研究 2008; 41(3): 249-258.
- 39) 前掲書 38): 257.